

# 日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月18日(金)

活動メンバー:小原真理子・高田昭彦・長谷川美智子

## 1. 活動の概要

活動日時:令和元年 10月18日(木)7:45~20:00

活動場所:長野県長野市豊野町 小学校体育館避難所

活動目的:先遣隊活動

活動日の状況:台風第19号の被災後、7日目、天気は晴れのち雨、最高気温20度、最低気温12度 湿度78%-89%  
下水処理場であるクリーンピア千曲の浸水事故によるポンプ排水が18日に終了し溢水解消となる。19日管内14万3千人で行なわれていた下水道制限が解除される予定。(マンホール溢水確認地区:長野市赤沼地区・豊野浅瀬地区に集中して発生)

## 2. 活動の実際

時間	活動の内容
7:45	・長野県社会福祉協議会にてボランティア車両証明書手続き
8:10	・長野市保健所に到着
8:30	○長野市災害保健医療調整会議に参加 進行役:長野市保健所、9:00 県会議
10:20	・被災地外保健師よる聞き取り調査開始 本日より被災地外保健師が支援に参加し、避難所や在宅で避難生活する住民に対し聞き取り調査を開始する。今後、被災住民が訪問する支援者ごとに同じことを何度も言わなければならないという負担を強くないように活動する必要がある。そのため、外部支援者と行政の情報の一元化を行う必要があり、担当保健師(被災地外保健師)がUSBを持参し避難所に訪問することになる。 ・豊野西小学校に段ボールベッド250台搬入予定のお知らせあり 避難所生活をされることに段ボール設置の周知を行い、了承を得ている。 ・市販薬の管理に関する調整 薬がないという被災者の方からのSNSにより市販薬の提供があった。今後、服用数管理を誰が行うのが課題。薬剤師会の支援があるのか確認を要請する。 ・長野市民病院支援看護師(被災地内)派遣日程のお知らせあり 役割の明確化が課題 諏訪中央病院の支援がきている、登録を行っているが記載がない ・外部支援者の連絡先照会 調整会議事務局 電話番号伝達 ・北部スポーツレクレーションパークの出前講座である保育園について NPOの支援で継続支援ではないとの返答、支援ニーズとしてあるなかどのように対応を行っていくのか →清泉女学院の駅前保健室@清泉を紹介し、各支援チームにチラシを配布、広報依頼 ・感染症対策 長野西中央病院、一時登校開始となった子どもへの感染指導を諏訪中央病院へ依頼 ・夜間診察患者報告 発熱・捻挫・下痢嘔吐(病院受診)・擦過傷・精神不安定者あり ・昨日の検討事項 消石灰の小学校校庭散布中止 履物の汚染への消毒中止 流水で汚れを十分に落とす 作業中の手洗い・マスクの着用の徹底 避難所への救急箱設置の購入設置の予定

	<p>IRAT ニーズ把握開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回ミーティング 夕方の 17 時開催、明日 8 時 30 分から開催</li> <li>○地域災害医療圏災害保健医療調整会議</li> <li>・須坂市 災害支援ナース要請 在宅訪問開始(来週より)</li> <li>・小布施市 避難所 2 か所 避難住民は仮住まいが決まる 在宅訪問昨日より開始 しっかりと話しがきけるように災害支援ナースを要請、20 日以降派遣予定 住民への屋内・屋外の消毒方法について業者依頼を行うのか検討中</li> <li>・地元医師会の参加要望</li> <li>・福祉チームの常駐が決定</li> <li>・福祉避難所の開設: 北部保健センター 連絡・・・中部地域包括センター 本日、長野県・愛知県・富山県・豊田市より厚生労働省から派遣される保健師が到着する。 明日から避難所や自宅で片づけを行っている方などを中心に聞き取り調査を開始。 避難所の支援団体と協力して聞き取り調査を行っていきたい。</li> <li>・夜間の避難所の巡回体制の変更 本日より当直制は終了してほしい。 支援者より、避難所を利用されている方は日中自宅に戻られ作業を行っているため、身体上の変化を聞き取るためには 19 時から 21 時程度までの常駐は必要との意見あり、柔軟に対応するように指示あり。</li> <li>・避難所巡回診療担当割変更に伴う変更内容の確認</li> <li>・次回ミーティング、本日 16:00 開催</li> </ul>
11:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊野西小学校到着</li> <li>AMDA 本部に看護師としてボランティア支援のため挨拶</li> <li>・11:30 昨日の申し送りであった介入トリアージ住民の情報確認のため体育館訪問 段ボールベッド設置のためエリアデザイン変更のため確認できず 避難所入り口に生後 2 週間の乳児を抱かえる母親がおり、新聞の取材を受けている</li> <li>・11:40 段ボールベッド組み立て手伝い開始 次回搬入 12:15</li> <li>・12:15 避難所支援チームミーティング参加 外部保健師調査訪問の報告あり・・・USB の持参なし 本日、段ボールベッド 250 個搬入・体育館に設置のため計画内容報告あり 14 時までに各ベッドに番号記載 A・B 棟 あ～さ列(11列) 1～11戸 合計242個 ☞移動に伴う住民への対応は AMDA の医師・看護師がチーム構成を行い担当 長野市職員にも入ってもらい交渉が行うことが望ましい ベッド番号をベッド及び白紙に記載し、白紙に氏名・年齢・今後の移動の目途(O 移動可、×移動不可、? 不明、として記号で表示)・支援要望を記載し回収 避難所台帳作成につなげる ☞介入トリアージ一覧表をエリア分けから「あいうえお順」に変更 アセスメント空白欄を埋めることが出来るように、ベッド誘導時に情報収集を実施 ☞ベッド誘導 14 時開始予定</li> <li>・段ボールベッド設置・誘導の実際(写真1～4) 体育館で次回搬入のベッド組み立てを手伝う。</li> <li>15:00 ベッド設置・番号記載終了</li> </ul>



域的なものなのか、個人的なものなのかと焦点化していくことは、解決の糸口につながると考えることができた。

段ボールベッド配置による避難所再編成という貴重な経験をした。今朝になり得た情報であったが、AMDA の指揮命令系統のなかで被災住民中心の支援になることをこころがけ活動を行った。昨日申し送りを受けた住民への支援はエリアが変わったためできなかったが、明日は看護の役割としてミーティングで活動目的を伝え実践をしたい。災害対応のフェーズが変わり、健康と生活支援を軸に支援を行う時期が来た。被災を受けた方から聞いた話の内容からも支援が長期化することが伺えた。今からは気候が寒くなる時期でもあり、健康障害を予防する支援は支援するもの各々が自分事のように関わり、被災住民の命を守る支援につながるよう活動を行いたい。

また、段ボールベッドが配置されたことは、今まで支援を行ってきた看護師の保健医療福祉の情報と行政の情報が一元化できる機会となった。今後、一元化した情報を保健師と避難所支援者と行政が共有し、被災されたかたに負担のかからない支援につなげるために、どのような連携が必要となるのか各機関と調整を行い、次の支援につなげていきたい。



写真1. 床の掃除を行いながら段ボールベッドを配置中



図2. 段ボールベッドの配置番号と共に、被災住民一人一人の氏名・年齢・家族構成・今後の移動の目途(O 移動可、×移動不可、? 不明、として記号で表示)、支援希望を記載していく



写真3. 段ボールベッド配置中、転倒予防を目的に歩行介助を実施



写真4. 段ボールベッドが配置され、再編成された生活の場



写真5. 避難所利用者数に対しトイレが2つ、洗面所が2つ

仮設トイレの配置はあるが洗面所の仮設がなく衛生が保てない。